

総務環境委員会

説明資料

学生タウンなごや推進ビジョン（案）について

目次

| | 頁 |
|-----------------|---|
| 1 策定の趣旨、位置づけ | 1 |
| 2 学生を取り巻く現状 | 1 |
| 3 社会潮流の変化 | 2 |
| 4 大学や学生の取り組み | 2 |
| 5 課題整理 | 2 |
| 6 基本目標と方向性 | 3 |
| 7 実現に向けた取り組み | 4 |
| 8 推進体制 | 4 |
| 9 今後のスケジュール（予定） | 4 |

(別添)

学生タウンなごや推進ビジョン（案）

平成27年12月22日

総務局

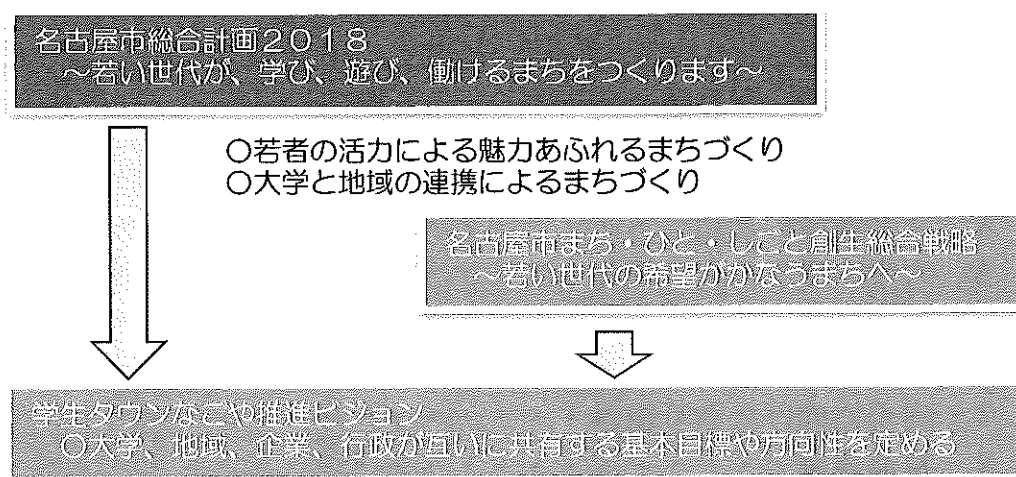
1 策定の趣旨、位置づけ

(1) 策定の趣旨

少子化の進行により今後学生数が減少するなか、「若い世代が学び、遊び、働けるまち」を実現し、学生から選ばれるまちづくりを進めるため、大学・地域・企業・行政が互いに共有し一体となって取り組む基本目標や、その方向性を定めるもの

(2) 位置づけ

名古屋市総合計画2018の着実な推進を支えるとともに、名古屋市まち・ひと・しごと創生総合戦略に掲げる「若い世代の希望がかなうまち」の実現に向け、取りまとめるもの



2 学生を取り巻く現状

(1) データから見た現状

| 区 分 | 内 容 |
|---------|------------------------|
| 学びの場所 | ・多くの大学が集積 ・高い地元学生率 |
| 働く場所 | ・高い正規雇用率 ・企業の海外進出増加 |
| 住み続ける場所 | ・低廉な家賃 ・高い鉄道利便性 |

(2) 学生から見た現状（学生ヒアリング等で出た主な意見）

- 大学の知名度が全国的でない
- 学生が行きたくなる場所が少ない
- 学生同士の結びつきが弱い

3 社会潮流の変化

- 名古屋圏の18歳人口は、平成30年から減少、平成40年には現在より約1万人減少
- 名古屋圏から流出する学生は流入する学生より多く、そのうち約3分の2が東京圏や関西圏に進学
- 18歳人口の減少に伴う都市間競争の激化により、今後、学生の流出が増加する恐れ

4 大学や学生の取り組み

- 地域との連携組織を独自で設置する大学や、行政と地域連携に係る協定を締結する大学が増加
- 地域の活性化や魅力づくりに取り組むナゴ校を通して学生が活動

5 課題整理

| 区 分 | 内 容 |
|-----------------|---|
| まちの特性を活かした人づくり | 少子化・高齢化、グローバル化の進展による地域や企業が求める人材の高度化、多様化への対応 |
| 学生の活力を活かしたまちづくり | 学生が多く大学が集積しているという強みの十分な活用 |
| 学生から愛されるブランドづくり | 住みやすく学びやすいまちの魅力の全国に向けた発信 |

6 基本目標と方向性

(1) 基本目標

| |
|---|
| <p>学生が学び育ち、躍動し、集まるまち・なごや</p> |
| <ul style="list-style-type: none"> ・大学、地域、企業すべてをキャンパスとして学び育つ ・まち全体で、いきいきと活動できる（躍動する） ・なごやの魅力に惹かれ、全国からなごやに集まる |

(2) 取り組みの方向性

| 方向性 | 内 容 |
|----------------------------|---|
| まち全体で 学生を育む | 大学、地域、企業すべてをキャンパスとして、ローカルな視点とグローバルな視点をあわせ持つ人材を育成 |
| 学生の 「おもしろい」を 応援する | 学生の活力がまちの魅力として還流するように、大学における地域の課題解決・魅力向上に向けた取り組みや、学生の自由で自発的な活動を応援 |
| 学生にとっての 魅力を高め 広く発信する | 地元はもとより全国の人々から、なごやで学びたい、学ばせたいと思われるよう、学生にとっての魅力を掘り起こすとともに広く発信 |

(3) 成果指標

| 指 標 | 現状値 (26年度) | 目標値 (31年度) | 目標値 (40年度) |
|--|---------------|---------------|---------------|
| 市内にある 大学の学生のうち 出身が東海3県外で ある割合 | 15% | 19% | 30% |

7 実現に向けた取り組み

| 方向性 | 取り組み |
|----------------------------|--|
| まち全体で 学生を育む | <ul style="list-style-type: none">・実践型インターンシップを通しなごやを担う人材を育成・ボランティア活動を通し地域を担う人材を育成・ボランティア活動が社会的に評価される仕組みを構築 |
| 学生の 「おもしろい」を 応援する | <ul style="list-style-type: none">・学生の共同活動拠点（たまり場）を設けるとともに、学生と地域や企業をつなぐ仕組みを構築・学生活動を支援する仕組みを創設・大学の地域における研究活動を推進 |
| 学生にとっての 魅力を高め 広く発信する | <ul style="list-style-type: none">・高校生からなごやで学びたいと思われるよう情報発信・なごやが好きな学生を増やすとともに学生の輪を拡大・学生が希望する働く場が見つかるよう支援・大学やまちの魅力を多様なメディアを活用して全国に発信 |

8 推進体制

- 取り組みの運営方法や推進体制について協議・検討するため、大学や経済団体などと共同して検討会議を設置
- ナゴ校に人材育成、活動支援、魅力発信メニューを新たに設け、取り組みを推進

9 今後のスケジュール（予定）

平成27年12月 パブリックコメントの実施
～平成28年1月

平成28年3月 策定・公表

